令和４年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	2	学 校 名	静岡視覚特別支援学校	校 長 名	鈴木　隆臣

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	担当部署
【育む】	**○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の充実と改善を図る。**	○授業、活動がわかった、もっとやりたいと答える幼児児童生徒（100%）	100%	A	児童生徒の実態に合わせて、教材を工夫したり、ICT 機器を適切に活用し、分かる授業作りに努めた。
		○授業や生活場面において集団構成の確保を工夫して、子供同士や多様な他者と協働する場面を設定したと答える教職員　（100%）	100%	A	友達との協働の中で、聞きたい、伝えたいなどの気持ちが育ち、自分から考えて動く様子が見られるようになった。
		○全教職員が一人１授業公開を実施（100%）	88%	A	計画どおり実施できたが、チーム研修の視点を明確にした話し合いが活発にできると良かった。
	○将来の生活を豊かにするためのキャリア教育の推進	○将来を見据えて、係活動や体験入学、職場体験を計画的に進めたと回答する教職員(90%以上)	100%	A	児童会や委員会など計画的に活動を実施できた。キャリア教育学習プログラムを意識して、幼児児童生徒に応じた活動を取り入れることができると良い。
		○学校からの情報を参考に進路や将来についての考えが深まったと回答する保護者(100%)	80%	A	保護者学習会や施設見学は、情報提供に役だった。面談等をとおして、進路について、保護者と一緒に考えていきたい。
【守る】	**○幼児児童生徒が、互いを尊重して安全で安心して生き生きと学習できる環境を整備する。**	○幼児児童生徒が、自分や友達の良さに気づいたり、安心して自分の考えや意見を伝えたりする環境の工夫をしたと答える教職員(100%)	100%	A	幼児児童生徒の作品を掲示し、友達から感想をもらう等の取組ができた。また、発表では、友達の考えを発展して、自分の意見を述べるなど、表現力も向上してきている。
	○防災教育の充実を図るとともに危機管理体制を整備する。	○防災について理解が深まったと答える幼児児童生徒（100%）	100%	A	繰り返しの訓練の中で、自分の身を守ったり、スムーズに避難したりと、幼児児童生徒の意識は、高まってきている
		○発災時における時系列に沿った行動を理解し、共有できた教職員（90%以上）	88%	A	少しずつ整理されてきているが、時系列に沿って、誰もが動けるように、防災計画書を整理していきたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	担当部署
【守る】	○幼児児童生徒の健康管理と事故防止の徹底を図る。	○感染症予防の指導と教室の衛生的な環境整備ができた教職員（90%以上）	100%	A	温湿度計（音声含）が教室にあるため、衣服の調節をしたり加湿器をつけたり、暖房をつけたりと室内の環境を快適に保とうと意識できてきた。
		○毎月の校内安全点検、チェックと問題点の早期改善ができたと答える教職員（90%以上）	100%	A	安全点検は毎月行えたが、細かい部分の汚れや破損等の発見などもう少し意識して取り組めると良い。
【つなぐ】	**○教職員の専門性の維持・継承と授業力を向上させるとともに、そのための職場環境を整備する。**	○新任研や自立活動学習会で研修したことを指導にいかせたと答える教職員。（100%）	96%	A	学部会内で、自立活動の内容を研修として取り組んだり、教育相談の事例の紹介があったりと勉強になることが多かった。
		自ら専門性の向上に繋がるような取り組みを実施した教職員（90%以上）	100%	A	各種研修や自立活動だより、相談だより等をとおして視覚障害教育について、職員に情報提供ができた。今後も個人個人が専門性の向上を常に意識して取り組めるようにしたい。
		○同僚を尊重したコミュニケーションやハラスメント根絶等に取り組んだと答える教職員(100%)	100%	A	互いの立場や考えを尊重して、幼児児童生徒に対応している職員が多くなってきている。今後も人権研修や人権チェックで学んだことを大切にして支援にあたりたい。
		○会議や業務が計画的かつ効率的に進められ、教材研究、授業準備に充てる時間がもてたと答える教職員（80%以上）	100%	A	年間行事や会議の精選等で事務処理の時間が増えてきている。今後も効率の良い会議の在り方などを探りながら、幼児児童生徒と向き合う時間を増やしていきたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	担当部署
【つながる】	○超早期から高等部まで切れ目のない支援体制（教育相談体制の充実）	○乳幼児の支援に向けた関係機関（病院、児童施設）との連携（10 件）	19 件実施	A	院内相談や保健センターへの訪問を通して、関係者に早期教育の重要性を伝えた。また、教育相談を紹介してもらえる機会も増えた。
	○他者との交流を大切にし、幼児児童生徒の周囲への興味・関心を広げ、社会経験の拡大と社会性を育む。	○園や学校、福祉課等に向けた視覚障害教育の理解推進活動（10 件）	37 件実施	A	担当者研修会を実施し、園や学校、福祉課等から多くの方に出席していただりたり、学校への訪問相談では、担当教員等に対象児童の見え方の説明と支援の具体例を紹介できたたりと視覚支援に関する多くのアドバイスができた。
		○交流相手校と連携して計画し、幼児児童生徒が活動を楽しめた、充実した時間をもてたと答える教員（100%）（幼小中）	100%	A	３校交流の他に三重盲とのオンライン交流、小河内小学校との偶然的な交流など充実した交流ができた。児童生徒同士の思考の深まりを大切にしながら、来年度も交流を進めていきたい。
		○外部人材や校外学習を活用し、幼児児童生徒の興味・関心を拡げたり、学びを深めたりすることができたと答える教職員（80%以上）	100%	A	リトミックや読み聞かせ、地域交流音楽会、静盲まつり、PTAのコンサート、クラブ活動等で地域人材を活用した授業が多く設定できた。
	○地域との連携・協働体制の整備を図る。	○協議会で出された意見を学部等に照らし合わせて考え、対応できることに取り組んだと回答する担当教職員(80%以上)	100%	A	地域の公園での花植えや集会所のことを知る学習、作業学習で作った製品をプレゼントするなど、積極的に地域と交流することができた。